

「秋田大学学生海外派遣支援事業」 帰国報告書

教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 4年次

氏 名：田口 萌香

派遣大学：キャリアリ大学

派遣期間：2012年3月～2013年2月

渡航年月日：2012年2月25日

帰国年月日：2013年2月23日

○イタリアについて

イタリア半島の西側に位置するサルデーニャ島の南端の都市である、キャリアリ市に一年間滞在しました。イタリアというと、ローマやミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、ナポリ等、よく知られている都市がたくさんあります。実際、イタリアを訪れる外国人旅行者は大変多く、世界観光機関（UNWTO）の調査によると、2011年に受け入れた外国人観光客数の多さでは、世界第5位を誇っています。

(http://dtxtq4w60xqpw.cloudfront.net/sites/all/files/docpdf/unwtohighlights12enlr_1.pdf 閲覧日：2013年3月19日)。日本人に限らずたくさんの外国人が、イタリアという国を訪れているのです。

では、日本人に限って言えば、どれだけの日本人がイタリアを訪れるのでしょうか。ウェブサイト JAPAN-ITALY Travel On-line には、ENIT（Agenzia Nazionale Italiana del Turismo／イタリア政府観光局）の推計によれば、2002年には100万人以上の日本人がイタリアを訪れたという記述があります。

(<http://www.japanitalytravel.com/jitra/italiano.html> 閲覧日：2013年3月19日)。秋田県公式ウェブサイト美の国あきたネットによれば、2013年2月における秋田県の人口はおよそ106万人（<http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1132637923908/index.html> 閲覧日：2013年3月19日）なので、2002年において秋田県の人口とほぼ同じ数の日本人がイタリアを訪れたということになります。これは大変大きな数字です。

また JAPAN-ITALY Travel On-line の同ページにはイタリアに対する日本人の関心が高まっているとの記述もありますので、近年ではさらに多くの日本人がイタリアを訪れていると予測できます。

ちなみに、日本を訪れるイタリア人はどれだけいるのでしょうか。日本政府観光局（JNTO）が発表した統計資料によると、2011年に日本を訪れた外国人の数はおよそ622万人。東日本大震災と福島第一原発事故の影響により、前年の約861万人に比べて27.8%減となりました。しかし、その後は徐々に回復しつつあります。では、その中にはどれくらいのイタ

リア人が含まれているのか見てみましょう。同年の、国別外国人観光客数ランキングを見ますと、イタリアは18位で、約1万7千人のイタリア人が日本を訪れました。日本人の人口1億2千万人、イタリアの人口6千万人というデータを考慮しても少ない数字に思われますが、欧州だけで見てみますと、イギリス、フランス、ドイツに次いで堂々の4位です (<http://10rank.blog.fc2.com/blog-entry-41.html> 閲覧日：2013年3月19日)。このことから、日本人にとってのイタリアほどでないにしても、イタリア人にとっても日本は観光すべき国だと言えるでしょう。

このように、たくさんの日本人が旅行先としてイタリアを選ぶのですが、そのうち何人が、私の留学先であるサルデーニャ島カリアリ市を選ぶのでしょうか。美しい海を持つこの島は、イタリアではリゾート地として有名ですが、日本での知名度は未だ低いように思われます。

○派遣先大学における授業の履修状況

学期	授業名	授業時間 (1週)	単位
2 学期	Leteratura Comparata 比較文学	4 時間	12
2 学期	Lingua Italiana A2 イタリア語 A2	4 時間	3
1 学期	Lingua Italiana B2 イタリア語 B2	6 時間	

私は語学に興味があるため、イタリア語の学習に力を入れました。10月から始まる2期制で、私は3月からの留学でしたので、3月から始まる2学期が、私にとって最初の学期でした。提携校では授業料の免除が適応されるという話を聞きますが、イタリア語の授業においてそれは適応されず、2学期は60ユーロ、1学期は30ユーロを払って授業に参加しました。これは、イタリア語の授業を主催する機関が、カリアリ大学ではなく、言語学センター (Centro Linguistico Di Ateneo) という異なる機関だからです。

生徒は2学期の最初にコンピュータによるイタリア語の簡単なテストを受け、その結果をもとにクラス分けされました。1学期においてはオーラルのテストもありました。イタリア語は、渡航前に自分で学習していたので、A2クラスに配属されました。

※イタリアでは Quadro Comune Europeo di Riferimento per la conoscenza delle lingue (QCER)に基づき、外国語としてのヨーロッパの言語レベルを以下のように分類します。

A – Base (初級)

A1 – Livello Base

A2 – Livello Elementare

B – Autonomia (中級)

B1 – Livello intermedio o “di soglia”

B2 – Livello intermedio superiore

C – Padronanza (上級)

C1 – Livello avanzato o “di efficienza autonoma”

C2 – Livello di padronanza della lingua in situazioni complesse

C1、C2 レベルはイタリア人にとっても難しいと言われるレベルです。

A2 レベルの授業は、おもしろかったのですが、物足りないという印象、また期待外れという印象を受けました。

私たち A2 クラスは、シチリア島出身のジュリア先生のもとで学びました。最初は分からないことばかりで、クラスの人とのコミュニケーションもうまくできず、さらに、フランス語やスペイン語を母語とする学生にとってのイタリア語は方言のようなものなのでしょう、勉強しなくても発音ができなくても、書いてある文章は理解できるという彼らとともに学習し、辛い思いをしました。その悔しい気持ちをバネに、必死で勉強しました。また、クラスメートは、授業時間外はもちろん、授業中でもたまに、英語を使って話していました。その方が言いたいことはすぐに伝わるし、効率的だからです。もちろん私にとっても英語の方が分かる単語も多く、中学校から何年も学習をしているため（少なくともイタリア語に比べれば）慣れているので、効率的なコミュニケーションを図るには英語を使用する方が良いということは明らかです。ですが、せっかく自分を訓練する機会、つまりイタリア語を話す機会があるのだから、それを最大限に利用すべきだと思い、授業時間外でもかまわず彼らとイタリア語で話すように心掛けました。また、机上での学習も真剣に取り組みました。その結果、自分のイタリア語能力、とりわけ会話能力は上達し、A2 クラスの授業では物足りなくなっていました。

また、私は日本で、「日本の大学は、入学は難しく卒業は簡単であるため、日本の学生は入学試験に向けて勉強し、入学後は勉強しなくなる。しかし海外の多くの国では入学よりも卒業が難しいため、入学した後も勉強する」という話を聞いていましたし、実際にそうだと思います。日本人学生にとって「入試」はゴールにすぎないのです。ですから、私は海外の勉強熱心な学生と出会って、共に励まし合って勉強を頑張りたいと熱望しておりました。

しかし、実際に A2 クラスで授業を受けてみると、勉強熱心と思える学生には一人も出会いませんでした。もちろん彼らにとっての授業のメインはイタリア語ではなく、建築や情報や薬学など、他の何かであることは分かります。しかし、授業に遅刻する学生がいない

ときは無く、授業の出席率も悪く、常時無遅刻無欠席だった私にはやる気が感じられませんでした。最も驚いたのが、テスト直前の授業に遅刻してきた学生がいたのですが、遅れてくるなり、先生に自分はあと何回休むことができるかと質問し、まだ休むことができるということが分かるとそのまま帰った学生がいたことです。また、さらに驚くべきことに、先生もそれを当たり前に思っている様子でした。選択権は学生にあるということを痛感しました。

また、学期の最終試験の一つとして、スピーチテストがありました。題材の指定はなく、自分が話したい事柄についてパワーポイント等を使って話すという内容でした。日本の文化を紹介したかったのと、料理は私の趣味の一つなので、イタリア人の知らない日本料理で、誰でも簡単に作れるものということで、親子丼の作り方を発表しました。まず、インターネットで親子丼のレシピを10種類ほど読み比べ、簡単でおいしく仕上がる方法を自分なりに考察しました。日本語でまとめた文章を伊訳し、独りよがりのイタリア語にならないように、イタリア人の友人に添削してもらいました。原稿、データが出来上がってからは友人の前で何度もリハーサルをしました。本番では10点満点をいただき、さらに教授が評価してくださって、ラジオ番組でスピーチをさせていただけることになりました。自分の努力が認められたような気がしたのを覚えています。

1学期は、B2クラスで授業を受けました。該当機関にはCクラスを設けていないので、この機関における最高レベルのクラスに配属されました。2学期のA2クラスは、18人の学生で構成されていましたが、1学期のB2クラスは9人で構成された少人数クラスでした。

A2クラスにおいて、生徒のやる気や向上心の欠如をひしひしと感じておりましたが、B2



B2クラスでのフィールドワーク。

クラスにおいては、最上級クラスということもありまして9人全員が勉強熱心で、まさに私が望んでいた授業ができたと思います。何より、アンナ先生が最も勉強熱心でした。毎回の授業の準備を怠らず、授業後の補足メールも欠かしませんでした。授業の面白さ・退屈のしなさで言えばジュリア先生の授業の方が楽しかったのですが、アンナ先生の授業では難しい文章を読んだり、毎回の宿題、さらに毎回小テストを行ったりして、ついていくのが大変でしたが、とても充実した授業でした。何より、当初より望んでいた、「勉強熱心

な仲間とともに励まし合って向上する」ということが実現できたので、このクラスの一員となれたことに本当に満足です。また少人数クラスのせいも、クラス全員の仲もとても良く、共に勉強する他、プライベートでも仲良くさせていただきました。もちろんここでの公用語はイタリア語です。

このクラスで半年間勉強して、イタリア語のモチベーションもさらに上がり、今後も学



寮のあった Roma 通り。カリアリのメインストリート。

習を続けたいと思っています。また、難しいですが、イタリア語を生かした仕事にも就きたいと考えております。

○生活面について

私は3月から8月まで学生寮に滞在し、二人部屋でしたがルームメイトはおらず、一人で部屋を使っていました。ですが、近くの部屋の学生さんたちと仲良くさせていただき、寂しく感じることはありませんでした。

学生寮には有料のインターネットがありますが、カリアリ市の Free Wi-fi も使えます。ただ、私が引っ越しをする直前に、一日 30 分という制限を設けるようになりました。性能はもちろん日本のものほど良くなく、動作は速くはありません。性能の良いインターネットサービスが欲しい人は携帯ショップでインターネット契約をしていました。

mensa と呼ばれる学食は、留学生は一食 2.5 ユーロで利用できます。プリーモ、セコンドを含め計 4 皿まで注文できます。時間帯によっては物が少ないことと、料理がしばしば冷めていることを除けば、安くたくさん食べられるのでとてもお勧めの施設です。私も家で自炊するのが面倒な時にはよく利用させていただきました。

一年間学生寮で生活する予定でしたが、9月からは学生寮が突然閉鎖することになり、アパートを契約しました。イタリアのアパートではルームシェア制度が主流で、私もイタリア人とルームシェアをしました。個人には一つの部屋が与えられ、キッチン、トイレ・お風呂が共同です。

しかし、ルームシェアで一緒に住んでいた人がお金を払わずに逃げ出して残った住民で払わなくてはなら

なくなったり（その後、大家さんと数カ月間話し合っ解決しました）、共同スペースを異常なほどに汚し、他人のものを勝手に使って捨て、床に排尿し、排便後にトイレットペーパーを使わない上に水を流さないなど「(日本人にとっては確実に、おそらく大部分のイタ



農家の友人のおじさんの家におじゃまして、ぶどう狩り。

リア人にとっても) 非常識な行動」をする男性と共に暮らすことになったりしたことから、アパートにおける良い思い出はあまりできませんでした。

余談ですが、友人によればこのような非常識な行動の原因は、イタリアの教育制度にあるそうです。日本の学校では道德教育を行い、放課後になれば当番制で掃除をすることが当たり前ですが、イタリアの学校では「勉強」のみを教えるそうです。そのため、すべての子供の常識や考え方は家庭に由来し、掃除や料理など「生活面」において教育されない子供も多くいます。また、唯一「勉強」が教えられているにもかかわらず真面目に勉強をする学生はほとんどいないそうです。

○全体を通しての感想

イタリア語に強い憧れを持って留学を決意しました。イタリア人は適当で時間にルーズというお話をしばしば聞き、自分には相容れない文化であることは想像できていましたが、実際にそうであるということ、身を以て学んできました。教授やイスモカ事務所(留学生関係のことを取り扱う事務所)に連絡をしても返事が来ないのは普通であり、とくに授業のことな



週1回以上通ったバール”coccodi”

ど重要な連絡が行き渡らないことには困りました。特に困ったのは、1学期のイタリア語の授業登録です。10月から始まるイタリア語の授業に関する情報がホームページに掲載されるのを待っていましたが10月に入っても掲載されず、イスモカ事務所に連絡をとってみましたが返信は無く、オフィスアワーに実際に足を運んでみると担当の人は欠席、事務所の受付の人から、トラブルにより授業開始が遅れていて、いつになるかは不明とのこと、何か情報が出ればホームページに掲載されると言われました。結局はfacebook上での友人とのやりとりの中で噂という不確かな情報を得ていました。また、頼んだ郵便物が届かないこともありましたが、こちらから出した手紙が日本に届かないこともありましたが、郵便局の切手等の値上げの告知も一週間前でした(告知があるだけいいのかもしれませんが)。

このような「適当」な風習にすっかり慣れてしまった今だからこそ思うのですが、がんばらずに生きることも大切なことではないかと思えます。工作中にもかかわらずインターネットでゲームをするイタリア人も見ました。イスモカの事務所では近くのバールでコーヒーを飲むためにオフィスアワー中に仕事を抜けることも珍しいことではありません。全体的な印象としては、利己的で不真面目で全く尊敬できるものではありませんでしたし、何をするにも効率が悪いですし、彼らの生き方から学ぶことなど正直ほとんどありませんでした。日本人は立派で、礼儀を大切にし、勤勉です。

coccodi 外観。



しかし、今日、がんばりすぎる日本人や、人生に疲れてしまっている日本人が多いと思います。たまには休憩することも必要ですし、何より、人生を楽しむことができないのに、満足な人生を送ることはできるのでしょうか。イタリア人は、仕事中でも勉強中でも、楽しむことを忘れません。また、そんなイタリア人と一緒にいると、こちらも楽しくなります。楽しければそれでいいのです。今日がんばりすぎて疲れている日本人はもう少し、何も考えないで楽しむ時間を持つことを学んだ方が良いと思います。もし現代の日本の社会で「がんばらないこと」が難しいのであれば、何も考えずにイタリアという国に生きてみて、何かトラブルがあっても笑ってやり過ごすこと、今日のことだけを考えて生きてみることに

何が起きても、死なない限りは生きているのです。笑っていれば、人生なんとかなるのです。

とは言っても、私は結局日本人のようにしか生きられませんし、何かあれば「時間の無駄だ」「効率が悪い」と思ってしまいます。明日試験があるなら今日勉強します。それが来週なら今週の勉強計画を立てます。ですが、「イタリアのような生き方もある」ということを知り、「がんばらなくても生きていける」ということを知り、楽にものを考えられるようになりましたし、簡単には落ち込まなくなりました。それでも、もしこの先人生に疲れたら、何も考えずにまたイタリアという地をまた訪れたいと思います。



coccodi の店員さんと。